

－第 2 章－

実践事例

第1章の内容をもとに、1時間の展開を具体的に説明します。どのように授業の流れをつくったらよいのか、その中で大切なポイントは何かを紹介します。

○国語

中学校第2学年 単元「きずなを読む(字のない葉書)」

○理科

小学校第5学年 単元「電流の働き」

○音楽

小学校第5学年 題材「様子を思い浮かべながら、リズムの特徴を生かして歌おう」

○外国語活動

小学校第5学年 単元「できることを紹介しよう(Hi, friends! 2 Lesson3 I can swim.)」

中学校国語科編 第2学年

1 教材研究をしよう

・単元名 きずなを読む

・教材名 「字のない葉書」 向田邦子作（中2：光村図書）

(1) まず教材となる文を読もう

国語科の教材研究の第一歩は、教師自らが教科書に掲載されている教材文をしっかりと読み込んで、教材文の価値や特徴をとらえることです。

そのうえで、子どもの発達段階・興味・関心に応じて、その指導の過程をどのようにするかを考えます。以下のような4つの方法で読みましょう。

ア 音読を繰り返す

声に出すことで、人物の動きや心情、場面ごとの情景がより想像できます。

〔方法〕 場面や段落の「間」のとり方を考えながら読むこと

〔効果〕 文章の時間的、空間的な場面の展開、視点、登場人物の心情や行動、情景描写、表現の美しさ、力強さ、リズム、言い回しなどの明確化

イ 視写・書き込みをする

視写で、作品特有の文章表現をとらえることができます。

〔方法〕 ① 重要語句、主述の関係、文と文の接続、会話文などを分類しながら、全文を1行ずつあけて視写すること

② 視写文の行間に、「語句の読み、意味や用法」、「思ったこと・考えたこと」、「わかったこと・わからないこと(疑問)」、「関係付け」、「浮かんだ言葉(感想や解釈)」などを書き込むこと

〔効果〕 子どもの反応や疑問を想定した発問・板書計画などの明確化

ウ 日常生活では使われない言葉・表現をチェックする

子どもがつかまずく言葉は意味を正確に調べます。大人は知っていて当たり前の言葉でも子どもに教えるとなれば、難しい言葉も多くあります。

〔方法〕 ① 例えば、「暴君」や「キャラコ」など日常生活ではなじみのない物の言葉の意味を、辞書などを使って調べること

② 言葉の背景にある社会の出来事を明らかにすること

〔効果〕 登場人物の心情や行動、情景描写などの明確化

エ 言葉と文脈をたどり、視点を定めて読む

あらすじや段落構成をつかみ、文全体の構造をとらえることで、書き手のものの見方や考え方をどのような方法でとらえさせればよいかを考えることができます。

〔方法〕 ① 空間や時間の変化に着目して、場面分けを行うこと

② 主人公がしたことを要約すること

③ 主人公は何を考え、何を求めているかを読み取ること

→作者の希望、願い、信念、意思などは主人公の言動に託しています。

〔効果〕 文章の時間的、空間的な場面の展開、視点、登場人物の心情や行動、情景描写、書き手のものの見方や考え方などの明確化

(2) 学習指導要領解説(以後、解説)の内容を具体化します

教材文の概要をつかむことができたなら、次は「解説」の内容を読んで指導内容を確認します。教科書教材では、教材文の後に学習課題が示されています。この課題をヒントに単元目標を設定することができます。この単元の学習内容は、学習指導要領解説で下記のように示されています。

〈中学校解説 国語 「C読むこと」P54～P55〉

- ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。
- イ 文章の全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

〈中学校解説 国語 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」P60〉

- イ(1) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語た多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

次に、学習活動の具体化を図るために、「解説」の指導内容を教材文の内容と照らし合わせて、「子どもがどのような活動や発言をすれば、学習内容をとらえたと判断できるのか」といった授業のゴールを設定します。ここでは、下記のようにします。

① 解説の内容を確認する。**ア 語句の意味の理解 中学校解説 国語 P54)****※P60「イ(1)語句・語彙」との関連**

- 何を読むのか：抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などを読む。
- どう読むのか：辞書を活用するなどして具体的な中身、論の展開、読み手自身の体験や読書経験を生かして読む。

イ 文章の解釈 中学校解説 国語 P55)

- 何を読むのか：文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味を読む。
- どう読むのか：各段落が文章全体の中で果たす役割、情景や人物の描写、登場人物の言葉や行動、話の展開や作品全体に表れたものの見方と関係付けて読む。

② 教材文の内容を当てはめる。

- 何を読むのか：暴君ではあったが、反面照れ性であった父が、普段の家庭生活での様子や私への「手紙」や末の妹への「葉書」にまつわるエピソード
- どう読むのか：父と娘（私、末の妹）にまつわる2つのエピソードを中心に読み、そこに書かれている人物の言動や様子を描写する表現から、「父」の娘への深い愛情を読み取る。

このように、①から②へと解説で示されている指導内容を、教材文の内容と結びつけることで授業を具体化します。この作品には、「暴君ではあったが、反面照れ性でもあった父が、実は娘への深い愛情を秘めているのです。」という文章は教材文のどこにもありません。そんな「父」の心情を、普段の家庭生活や父と娘にまつわるエピソードで描かれている情景や人物描写、言動から読み取るのです。

この作品では大きく二つの部分から構成されており、前半は筆者が女学校1年生で初めて親元を離れたときの「父からの手紙」にまつわる思い出で、後半は末の妹が疎開したときの父がもたせた「字のない葉書」にまつわる思い出が書かれています。

これらの思い出を通して、暴君で表向きは家族に厳しい父の、普段の生活からは決して

うかがい知れない娘たちへの「愛情の深さ」や「家族のきずな」が見えてきます。

つまり、「家族のきずな」は、文学的な文章における「描写」の効果と、「登場人物の言動の意味」を考えることで、理解を深めることとなります。

また、指導内容等の確実な定着を図るために、国語科固有のポイントとして、今回の実践では単元のテーマを『私』の父への思いの変化をとらえ、発表しよう」として、言語活動を行うとともに、次のような単元の指導計画を立てます。

(3) 単元の指導計画を立てます

(全4時間)

次 時	○学習内容 ・ 学習活動	ポイント
一 1	<p>○題名から作品の内容について想像するとともに、全文を通読しておおまかな内容をとらえ、初発の感想をもとに学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名から、第一印象を発表する。 ・ 注意する語句や新出漢字を調べ、通読する。 ・ 初発の感想を書き、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳しいのか、優しいのか、どちらが本当の父なのかと不思議に思う娘の気持ちを考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>普通の父</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かんしゃくもち ・ げんこつ </div> <div style="font-size: 2em; text-align: center;">↔ ? ↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>手紙の父</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心のこもった文字 ・ いたわりの言葉 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>父の娘に対する気持ちを手紙のやりとりから読み取る</p> </div>
二 1	<p>○作品の前半部分を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 心情や情景を表す語句に着目して、「私」への手紙や「妹」の書いた葉書によって父のどのような人柄と心情を発見したのかを書く。 ・ 読み取った内容から、「父」に対する自分の考えを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私への手紙を書いた時と末の娘の葉書を読んだときの父の気持ちを読み比べる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>私への手紙</p> <p>離れて暮らす娘を心配する気持ち</p> </div> <div style="font-size: 2em; text-align: center;">⇩</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>末の妹からの葉書</p> <p>次第に弱まる妹を心配する気持ち</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>父の娘への深い愛情が手紙のやりとりから伝わってくる。</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>末の妹が疎開先から帰宅した時に父がとった態度・行動</p> </div>
1 本時	<p>○作品の後半部分を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 末の妹が「疎開に出発する前」と「帰宅するとき」に父がとった行動や態度から父のどのような思いが伝わってくるかを考えて書く。 ・ 前半部分と後半部分で読み取った内容から、「父」の家族に対する思いを書く。 	
三 1	<p>○作品の結末部分を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あれから三十一年」が過ぎ、「私」はどのような思いで父のことを振り返っているのかを考えて書く。 ・ 読み取った自分の考えを発表し合うことで、「私」の父への思いの変化をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亡くなって30年以上経った今も父のことを思う娘の気持ちを話し合う。

(4) 目標を達成できるように読みの視点をはっきりさせます

視点① 心情や情景を表す語句に、自らの体験や知識を重ねて理解し、自分の考えをもつ。

「茶の間に座っていた父は、はだしで表に飛び出した。」

↓

「はだし」でくつもはかずに飛び出す」父の姿に着目

「はだしで飛び出す」姿から、子どもを心配する父の愛情が伝わってきます。

視点② 描写の効果や登場人物の言動の意味などを考えて、作品の内容を理解し、自分の考えをもつ。

暴君で「ふんどし一つで家じゅうを歩き回り、大酒を飲み、かんしゃくを起こして母や子どもたちに手を上げる」マイナスイメージの父

⇔

手紙や葉書には穏やかで優しく、常に私と妹のことが心配でならないプラスイメージの父

異なる父の姿を対比させることで、娘への愛情の深さが効果的に描かれている。

単元のねらい 「家族のきずな」をとらえることができる。

(5) 板書計画をします

めあてとまとめが黒板の両端に来るように配置する

○月○日 2/6
字のないはがき
向田邦子 作

疎開する前
おびたしいはがきにきちようめんな筆
元気な日はマルを書いて

× ○ ○ ○

百日せきをわずらって
しらみだらけの頭で

この日は何も言わなかった
やせた妹の肩を抱き、
声を上げて泣いた

帰宅の日

普段は「暴君」だけど、「父が、大人の男が声を立てて泣く」姿から、妹に悲しい思いをさせて申し訳ないという、親としての深い愛情と悲しみがわかる。

娘に對する思いを読み取るう

自分がそうさせてしまった

すまないがまんしておくれ

片時も離したくなかったという父の愛情

上段・・・叙述文
下段・・・読み取った気持ちを整理。

特に気付かせたい
気持ちは中央に

叙述の文は
短冊にしておく

コラム：「文学的文章の特徴」

多くの文学作品の場合、たいていの主人公は作品冒頭部分にすでに『何らかの問題』を抱えています。「字のない葉書」では、「暴君ではあったが、反面照れ性でもあった父」の言動がそれにあたります。そして『何らかの問題』が結末部分では見事に解決されて物語は終わります。その『何らかの問題－解決』のために必ず誰かとの出会いと交流があります。「茶の間に座っていた父は、はだしで表へ飛び出した。」「やせた妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。」がそれにあたります。この『何らかの問題－解決』のプロセスの把握をしておく、文学的文章の教材研究がしやすくなります。

2 1時間の展開を考える

(1) ゴールから先に考えて授業をつくります(★第3時の場合)

授業のゴール(本時主眼)

末の妹が学童疎開から帰って来たとき、暴君の父親が言葉にはしなかったけど、はだしで表に飛び出し、やせた妹の肩を抱き、声を上げて泣いたときの父の気持ちから、娘への愛情あふれる父の思いを読み取ることができる。



これを子どもの言葉に直したものが「まとめ」になる。

まとめ(例)

普段は「暴君」だけど、「父が、大人の男が声を立てて泣く」姿から、戦時下の厳しい状況の中でも、妹に悲しい思いをさせて申し訳ないという、親としての深い愛情と悲しみがわかる。



このようなまとめが子どもから出るようにするためには…

【自力解決のための手だて】

①葉書のエピソード(疎開前と帰宅時)に表現されている父は、どちらが愛情深く表現されているかを問いかける。

※父に関する会話、行動描写、情景描写などを示す色カードや短冊を示す。

(前時までの学習プリントも活用)

②末の妹が「疎開に出発する前」と「帰宅するとき」の父の行動や態度から父の思いを考える。

※自分の知識や体験と関連付けて書くように助言する。

【集団解決のための手だて】

③なぜ、葉書のエピソード(疎開前と帰宅時)が並んで書かれているかを考えさせる。

※単に「家族思い」「愛情深い」という言葉だけでなく、2つのエピソードを対比させ、交流させる。

④愛情深い父を表したいのであれば、疎開前のエピソードはいらぬのではないかを問う。

※末の妹に対する父の深い愛情をとらえさせる。



会話、行動・情景描写だけでなく、自分の知識や経験から父の心情をつかむという課題を示しためあては…

めあて 妹の葉書が変化していくことに対する、父の娘に対する思いを読み取ろう。



この課題意識が生まれるためには…

○ 前時に学習した「父から私への手紙」のこと、暴君である普段の父の姿や末の妹が学童疎開に行く前に葉書を準備する姿、返信される葉書に対する父の思い、疎開から帰ってきたときの様子などを対比し、交流することで普段の父からは想像できない娘の対する深い愛情や思いをとらえる。

(2) 本時の展開

＜主眼＞

暴君の父が、末の妹が出発する前に葉書を用意する姿と、妹の帰宅時の言動から、本当は家族思いで優しい心をもっていたことをとらえる。

＜展開＞

段階	学習内容と活動	発問と手立て(例)
導入	1 前時で学習した父の人柄や心情から、末の妹に対する思いを振り返り、本時の学習課題を設定する。	<p>葉書のエピソード(疎開前と帰宅時)では、どちらの方が愛情深い父の姿を表現していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 父の行動や態度(情景描写)から伝わってくる父の思いを考えて書かせる。
	<p>めあて 妹の葉書が変化していくことに対する、父の娘に対する思いを読み取ろう。</p>	
展開	<p>2 登場人物の言動や様子を描いた表現に着目して、父親の人柄や心情、家族それぞれの心情を読み取る。</p> <p>【自力解決】 (1) 後半部分から最後まで音読し、末の妹が「疎開に出発する前」と「帰宅するとき」の父の行動や態度から父の思いを考える。</p> <p>【集団解決】 (2) (1)について、自分の考えを発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに音読させ、父の行動や態度を表す部分に傍線を引かせる。 前時までの学習内容と比較しながら、父の行動や態度から考えられる末の妹に対する父の思いを書かせる。
	<p>・末の妹が出発する前に葉書を用意する父の姿や返信される葉書の状況、帰宅したときに「はだして表へ飛び出した」という父の姿から、戦争中とはいえ、幼いのに1人で寂しい思いをさせてすまない。</p> <p>・「私」が父の泣く姿を、初めて見たので、行動や態度では見えないけど、末の妹のことで居ても立ってもいられなかった。</p>	<p>葉書のエピソード(疎開前と帰宅時)が並んで書かれているのはなぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の話を聞き、気づいた部分や考えが深まった部分を書かせる。
		<p>愛情深い父を表したいのであれば、疎開前のエピソードはいらないのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分自身の体験や知識からも父の思いを書かせる。
終末	<p>3 「私」の目に映った父の姿から家族に対する心情を読み取る。</p> <p>(1) 2 (2)の意見交流から、自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た」という記述を取り上げ、教師がこれまでの父の言動や姿を振り返ることで、「私」の目に映った父の姿から家族に対する心情を書かせる。
	<p>まとめ 普段は「暴君」だけど、「父が、大人の男が声を立てて泣く」姿から、戦時下の厳しい状況の中でも、妹に悲しい思いをさせて申し訳ないという、親としての深い愛情と悲しみがわかる。</p>	
	<p>(2) 次時の学習内容を確認する。</p>	

小学校理科 第5学年

・ 単元名 「電流の働き」

1 教材研究をしよう

(1) 「解説」で、指導する内容を確認めます

教材研究をするとき、教科書を使って教える内容と方法（観察・実験）を確認します。そのときに学習指導要領解説は必読です。その理由は、学習指導要領解説に、教科書に記載されている内容と方法（観察・実験）が何のために、どのように行うのかが詳しく書かれているからです。

学習指導要領解説を読む順は、下記のとおりです。

- ① 学習指導要領解説の目次から該当する学年を探し、学年の目標を確認します。
- ② 学年の「A 物質・エネルギー」「B 生命・地球」にかかわる目標を確認します。
- ③ 教科書の単元名から、該当する内容を確認します。

まず、学習指導要領解説の目次のページを開きます。目次から指導する学年のページを開き、学年の目標を確認します。次に、「A 物質・エネルギー」「B 生命・地球」にかかわる目標を確認します。さらに、教科書の単元名に該当する内容が示されているので、その内容を確認します。

ここでは、小学校理科単元「電流の働き」を例に説明します。「電流の働き」は、第5学年の指導内容です。第5学年の学年の目標、「A 物質・エネルギー」「B 生命・地球」の目標、学習内容「電流の働き」と読み進めます。「電流の働き」は、下記のように書かれています。これが指導する内容です。

- 電磁石の導線に電流を流し、電磁石の強さの変化を調べ、電流の働きについての考えを持つことができるようにする。
- ア 電流の流れているコイルは、鉄心を磁化する働きがあり、電流の向きが変わると、電磁石の極が変わること。
- イ 電磁石の強さは、電流の強さや導線の巻数によって変わること。

(2) 「解説」で、指導の方法を確認めます

指導する方法については、学習指導要領解説のP47の中段付近を見ます。そこに指導する内容のア、イに関して、その指導方法（観察、実験）が示されています。

- ア コイルに鉄心を入れて電流を流すと、鉄心は磁石になる。また、コイルを乾電池につないで、乾電池の極を変えると電磁石の極が変わる。これらのことから、電流には磁力を発生させる働きがあるとともに、電流の向きを変えると電磁石の極が変わることをとらえるようにする。
- イ 電磁石をつくり、乾電池をつないで電流の強さを変えると電磁石の強さが変わる。また、導線の長さを同じにして、巻数の異なる二つの電磁石をつくり、一定の電流を流すと、電磁石の強さに違いができる。これらのことから、電磁石の強さは、電流の強さや導線の巻数によって変わることをとらえるようにする。

— 線が観察、実験を示し、 ~~~ がとらえる内容を示しています — 線に示してある観察・実験を実際に行うこととなります。

(3) 目標を決めます

目標は、下記ア～エの4観点から設定します。目標設定の留意点は以下のとおりです。

a 自然事象への関心・意欲・態度

自然事象への関心・意欲・態度の基本的な目標は「自然に親しみ、意欲をもって自然の事物・現象を調べる活動を行い、自然を愛するとともに生活に生かそうとする。」です。「自然に親しむこと」「自然を愛すること」は、理科の学習全体で培っていくことです。そこで、単元レベルで培うこととしては、「自然事象に興味・関心をもつこと、進んで調べようとする、生活に生かそうとする」が考えられます。「電流の働き」では、指導する内容が、ア 電流には磁力を発生させる働きがあるとともに、電流の向きを変えると電磁石の極が変わることをとらえるようにする。イ 電磁石の強さは、電流の強さや導線の巻数によって変わることをとらえるようにする。の2つです。この2つを整理すると、電磁石の導線に電流を流したときの現象と電流の働きを調べることになります。そこで、「電磁石の導線に電流を流したときの現象に興味・関心をもち、電流の働きを進んで調べようとしている。」という目標を設定することができます。

b 科学的な思考・表現

学習指導要領解説のP8に問題解決の能力が、下記のように示してあります。そこに示していることを参考にすると、科学的な思考・表現の目標を設定するときに役立ちます。

学年	問題解決の能力
第3学年	身近な自然の事物・現象を比較しながら調べる。
第4学年	自然の事物・現象を働きや時間などと関係づけながら調べる。
第5学年	自然の事物・現象の変化や働きにかかわる条件に目をむけながら調べる。
第6学年	自然の事物・現象についての要因や規則性、関係性を推論しながら調べる。
中学校	観察・実験の結果を分析し、解釈する。

「電流の働き」は、第5学年の単元です。第5学年の問題解決の能力は「自然の事物・現象の変化や働きにかかわる条件に目をむけながら調べる」です。教科書には、電磁石の強さと電流の強さや導線の巻数との関係を調べる実験、電磁石の極の変化と電流の向きについての関係を調べる実験が示されています。電磁石の強さと電流の強さの関係を調べる時には巻数を同じにしておく必要があります。また、電磁石の強さと導線の巻数の関係を調べる場合には、電流の強さを同じにしておく必要があります。これらのことから、実験方法を計画する場面で、「電磁石の強さと電流の強さ、導線の巻数、電磁石の極の変化と電流の向きについて、条件に着目した実験を計画し、表現している。」という目標を設定することができます。

c 観察・実験の技能

観察・実験の技能の基本となる目標は「自然の事物・現象を観察し、実験を計画的に実施し、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録する。」です。この基本となる目標と実際に行う観察・実験から目標を設定します。「電流の働き」では、電磁石に極があるかという電磁石の性質に関する実験や電磁石の強さを変えるにはどうしたらよいかといった実験が計画されています。そこで、電磁石の性質、強さに関することと観察・実験の基本となる目標を合わせて「電磁石の性質や強さを調べその過程や結果を正確に記録している。」という目標を設定することができます。

d 自然事象についての知識・理解

「1 教材研究をしよう」の(2)で示した〰の部分、自然事象についての知識・理解の目標になります。語尾のとらえるようにするを理解しているに書き換え、「電流には磁力を発生させる働きがあるとともに、電流の向きを変えると電磁石の極が変わることを理解している。」「電磁石の強さは、電流の強さや導線の巻数によって変わることを理解している。」という目標を設定します。

(4) 教える順番を決めます

教える順番を決めるためには、単元の流れを考えていくことが大切です。基本的には、教科書の順番どおりに配列していきます。「電流の働き」では、「電流には磁力を発生させる働きがあるとともに、電流の向きを変えると電磁石の極が変わることを理解している。」「電磁石の強さは、電流の強さや導線の巻数によって変わることを理解している。」という知識・理解に関する2つの目標が学習指導要領解説に示されています。そして、教科書は、その2つの目標に基づいて具体的な指導内容と方法が記載されています。学習指導要領解説の内容と教科書の順番を照合し、単元の配列を決めます。学習指導要領解説の「電流の働き」の最後に、ものづくりについて述べられ、教科書にも電流の働きで学習したことを生かしたものづくりの内容が述べられています。それらのことから、学習のまとめとしての電流の働きを利用したものづくりを単元の最後に位置づけます。これに本時に必要な時数を配当すると単元指導計画となります。

学習内容	学習活動
①電流には磁力を発生させる働きがあるとともに、電流の向きを変えると電磁石の極が変わること	魚釣りゲームを行い学習への興味・関心を高める。その後、第3学年「磁石の性質」の学習と関連付け、電磁石の性質を永久磁石の性質と比較して調べる。
②電磁石の強さは、電流の強さや導線の巻数によって変わること	電磁石を強くする方法について、たくさんのクリップをつけることができるようにする方法を第4学年「電気の働き」の学習を関連付けて調べる。
③電磁石を利用したおもちゃづくり	おもちゃづくりをするだけでなく、計画する段階から①や②で学習したことがおもちゃのどこに生かされているかを発表する。

(5) 本時の主眼と展開を考えます

教える順番が決まったので、本時の主眼を設定します。ここでは、学習内容の②「電磁石の強さは、電流の強さや導線の巻数によって変わること」を取り上げます。理科においては、ねらうこととそのための方法（観察・実験）を設定する必要があります。また、子どもが実験方法を考えることができる場合は、子どもに実験方法を考えさせます。そのため、下記に示した主眼を設定することができます。

ア 電磁石を強くするための実験方法を計画することができる。

イ 電磁石を強くするための実験を通して、電磁石を強くする方法を理解することができる。

※本時の展開については、2の「ゴールから先に授業をつくる」で説明します。

(6) 教材の準備をします

①単元全体で準備するものを確認しましょう。

教科書の観察・実験の図や手順を見て、単元全体での準備物を確認し、準備します。

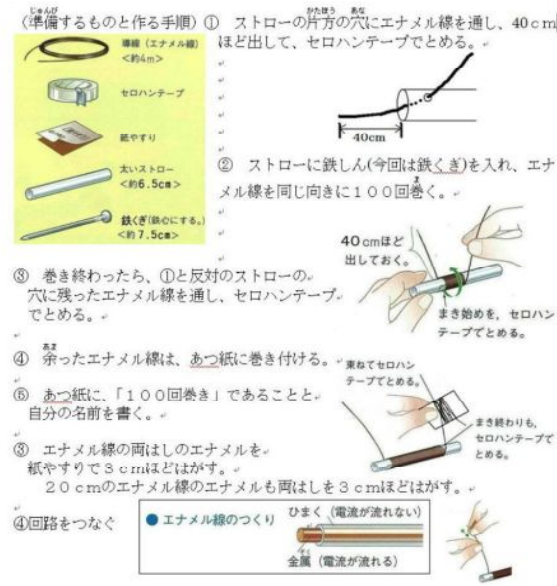

そのときに個人で使用させるか、班で使用させるかを決め、準備する数を決める必要

があります。基本的には、材料、道具の確保状況や1人での操作が難しい場合、加熱器具など安全面を配慮する必要がある場合には、ペアや少人数で行います。

「電流の働き」では、電磁石は1人1つもたせませす。しかし、電流計を使って電流の大きさを測定する実験に関しては、操作が困難ですのでペアや少人数で行います。

② 掲示物等

電磁石の作り方の手順や実験器具の使い方、安全面での必要事項などは、掲示する必要があります。教科書から選び、準備しましょう。

電磁石の作り方の手順	電流計の使い方の説明
<p>電磁石の作り方の手順</p> <p>① ストローの片方の穴にエナメル線を通し、40cmほど出して、セロハンテープでとめる。</p> <p>② ストローに鉄しん(今回は鉄くき)を入れ、エナメル線と同じ向きに100回巻く。</p> <p>③ 巻き終わったら、①と反対のストローの穴に残ったエナメル線を通し、セロハンテープでとめる。</p> <p>④ 余ったエナメル線は、あつ紙に巻き付ける。</p> <p>⑤ あつ紙に、「100回巻き」であること、自分の名前を書く。</p> <p>⑥ エナメル線の両はしのエナメルを、紙やすりで3cmほどはがす。20cmのエナメル線のエナメルも両はしを3cmほどはがす。</p> <p>⑦ 回路をつなぐ</p> <p>● エナメル線のつくり</p> <p>ひまく (電流が流れない) 金属 (電流が流れる)</p> 	<p>電流計の使い方の説明</p> <p>器具などの扱い方</p> <p>指導面</p> <ul style="list-style-type: none"> 電流計の使い方について つなぎ方や諸注意(乾電池だけをつながない) <p>安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> 巻き数や乾電池をふやすとコイルが熱くなる 調べるときだけ電流を流す 結果がわかったらスイッチを切る 

(7) 気をつけよう！

理科はモノで語ることが大切です。授業の導入では、必ず事象提示を心がけましょう。今から「電磁石について学習します。」ではなく、電磁石を使った魚釣りゲームや電磁石を利用したおもちゃを実際に見せることで、子どもの学習への意欲を喚起することができます。次に、危険なことや子どもがしてしまいがちな失敗を予備実験によって事前に把握しておくことです。この学習では、コイルが熱くなり火傷の危険があるので、実験をするとき以外は電流を流さないことや電流計の正しい使い方について実験の前に確認することが大切です。

(8) 理科の目標や内容について

学習指導要領解説の第2章には、理科の目標及び内容が示してあります。特に理科の目標に関しては、下記ア～カに示したように文節に区切り、それぞれの意図するものについての説明がされています。

- ア 自然に親しむこと
- イ 見通しをもって観察、実験を行うこと
- ウ 問題解決能力を育てること
- エ 自然を愛する心情を育てること
- オ 自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図ること
- カ 科学的な見方や考え方を養うこと

例えば、実感を伴った理解に関しては、3つの側面から述べてあり、その3つを踏まえた授業を行っていくと子どもたちの理解をより確かなものとすることができます。単元レベルの教材研究と並行して理科という教科の特性も学ぶ必要があります。

2 1時間の展開を考える

(1)「めあて」と「まとめ」がぶれないように

「1 教材研究をしよう」「(4)教える順番を決める」の学習内容②「電磁石の強さは、電流の強さや導線の巻数によって変わること」を例にして1時間の展開について説明します。授業の展開を考えていく上で大切なことは、ゴールから授業をつくることです。こうすることで、「めあて」と「まとめ」がぶれません。ここでは、電磁石を強くする要因を理解することが授業のゴールとなる展開を考えます。

授業のゴール（本時主眼）→電磁石を強くするための要因は、電流を強くすることと導線の巻数を増やすことである。

↓ これを子どもの言葉に直したものが「まとめ」になる。

まとめ 電流を強くしたり、導線の巻数を増やしたりする。

↓ このまとめが子どもから出るようにするためには・・・

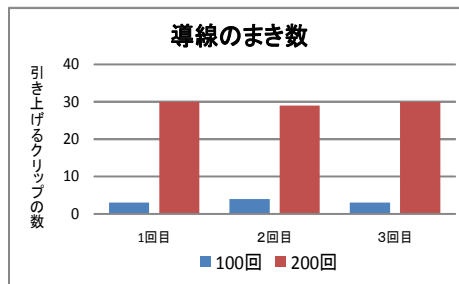
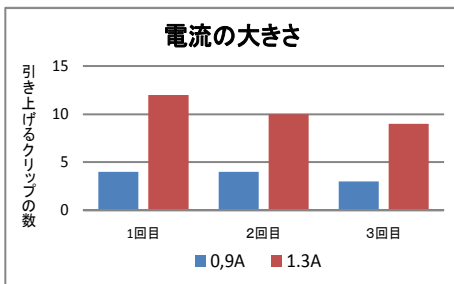
実験結果を表やグラフで整理する活動をしくむ

電流の大きさ

電池の数	電流の強さ	引き上げるクリップの数		
		1回目	2回目	3回目
1個	0.9A	4個	4個	3個
2個	1.3A	12個	10個	9個

導線の巻数

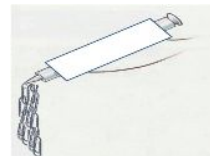
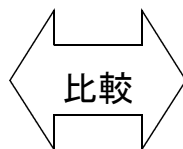
コイルの巻き数	電流の強さ	引き上げるクリップの数		
		1回目	2回目	3回目
100回	0.9A	3個	4個	3個
200回	0.9A	30個	29個	30個



↓ このような実験方法を計画し実験を行うためのめあては・・・

めあて 電磁石を強くする方法を考え、実験によって確かめよう。

↓ この問題意識が生まれるためには・・・



クリップがあまりつかなかった電磁石

クリップがたくさんついた電磁石

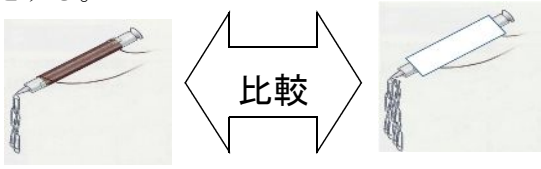
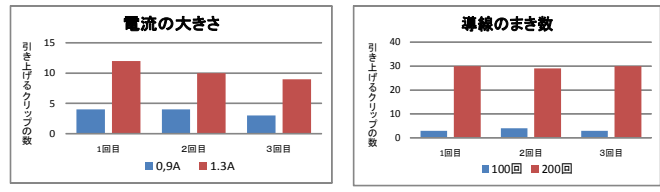
- ・クリップがつく数の違う2つの電磁石を準備する。
- ・クリップが少ししかつかない電磁石は、乾電池1個にしておく。
- ・クリップがたくさんつく電磁石は、巻数、電池の部分をブラックボックスにして提示する。
- ・2つの電磁石は、何がどう違うのかを予想させ、電磁石を強くする方法が巻数と電池の数に関係していることをとらえさせる。

(2) 本時の展開について

<主眼>

- (1) 電磁石を強くする方法を見いだす。
- (2) 電磁石を強くする実験を通して、電磁石を強くする方法を理解する。

<展開>

段階	学習活動と内容	手立て
導入	<p>1 2つの電磁石を比較し、本時学習のめあてを設定する。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・導線の巻数の違いの比較 ・電流の大きさの比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時学習のめあてを設定するために、クリップを持ち上げる数の違う2つの電磁石を比較させる。(よくつく方は、巻数、乾電池の部分はブラックボックスにしておく。)
<p>めあて 電磁石を強くする方法を考え、実験によって確かめよう。</p>		
展開	<p>2 電磁石を強くする方法を考え、実験計画を立て実験を行う。</p> <p>(1) 各自で実験を行い実験結果を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電流を強くする実験→導線の巻数の統一 ・巻数を増やす実験→電流の大きさの統一 <p>(2) 実験結果を学級全体で交流する。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・電流を強くする実験→電流が大きい方が強い ・巻数を増やす実験→巻数が多いほうが強い 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験方法を計画できるように、4年生で学習した「モーターを速く回す方法」について表にまとめたものを黒板に張る。 ・実験結果を表、グラフに整理させ、実験結果を全体で交流することができるようにする。(表やグラフは、電流の大きさと導線の巻数に分けて作成させる。)
<p>まとめ 電流を強くしたり、導線の巻数を増やしたりすると電磁石は強くなる。</p>		
終末	<p>3 これまでの学習を想起し、次時の学習内容を確認する。</p> <p>○これまで学習したことを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電磁石の性質 ・電磁石を強くする方法 <p>○次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電磁石の性質や電磁石を強くする方法をいかしたモノづくりについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時学習への意欲を喚起するために、電磁石を利用してつくったおもちゃを提示する。

小学校 音楽科 第5学年

- ・題材名 様子を思い浮かべながら、リズムの特徴を生かして歌おう
- ・教材名 「こいのぼり（共通教材）」（小学生の音楽5 “こころのうた”：教育芸術社）

1 教材研究をしよう

(1) まずは、教師自身が楽曲のよさを味わうこと(音楽的な特徴を把握する)

音楽科の授業は、楽曲の教材分析が授業づくりの基盤となります。まずは、教師自身が取り扱う楽曲をしっかりと聴き込んだり、歌ったりしながらそのよさを味わいましょう。本教材「こいのぼり」を聴くと、“付点の弾むリズム”が特徴であることに気付くでしょう。この特徴を基にどのように表現させるのかを教師自身が実際に歌って試し、様々な表現の工夫を考えてみましょう。そうすることで、「子どもたちに何をどのように感じ取らせたいか」「感じ取ったことをもとにどんな工夫をさせたいか」が明確になります。さらには、歌詞の内容を解釈したり、楽曲の背景について調べたりしておくことで、歌詞や背景と音楽的な特徴を関連付けた表現の工夫や鑑賞を仕組むこともできます。



(2) 学習指導要領解説で指導事項を確かめる〔共通事項〕含む

共通教材を教える場合、どの教科書も「こころのうた」や「日本の歌」などの題材名が示されています。これでは、学習指導要領のどの内容を指導すればよいか分かりません。

そこでまず、教科書に示されている「～を生かして歌いましょう」や「～を感じ取って聴きましょう」などの学習課題を手掛かりに、学習指導要領の内容を確かめます。本教材には“リズムの特徴を生かして歌いましょう”や“情景を想像し、旋律の特徴を味わって表現しよう”などと示されていますので、歌唱の指導事項ア～エから適切な事項を設定します。教科書の学習課題から、事項イが指導内容であることがわかります。さらに、「表現を工夫し、思いや意図をもって歌う」ためには歌唱技能が必要になります。そこで、事項ウも必要な内容であることもわかります。

一題材に多くの指導事項を入れると消化不良になります。本題材であれば1～2事項程度が妥当でしょう。

ポイント！



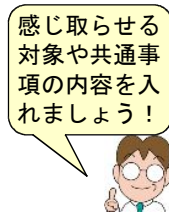
- ア 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。
- イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
- ウ 呼吸及び発声の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。
- エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。 (歌唱：第5学年及び第6学年)

次に、〔共通事項〕の内容を設定します。本教材の最大の特徴は“付点のリズム”です。この特徴を生かしながら、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌唱表現にするためには「速度」「強弱」「フレーズ」などの表現を創意工夫する活動が考えられます。また、楽譜から作者の創作意図を読み取ったり、生徒同士の音楽表現を他者に伝えたりするために音楽に関する記号や用語について音楽活動を通して理解させる必要があります。そこで、本題材では次の〔共通事項〕の内容が必要です。

- 〔共通事項〕ア(7) リズム、速度、強弱、フレーズ
- イ mp、mf、f、スラー、クレシェンド、四分休符、プレス

(3) 題材名は学習内容がわかるように設定する

指導事項が明確になったら、子どもにわかりやすい題材名を設定します。本題材では、学習指導要領の内容、教材曲の特徴、教科書に示された学習課題などから「様子を思い浮かべながら、リズムの特徴を生かして歌おう」と題材名を設定します。こうすると、学習内容がひと目でわかり、「学びのある音楽科の授業」のスタートラインに立てます。



(4) 題材の目標を観点別に設定する

題材名を設定した後は、題材の目標を観点別に設定します。歌唱、器楽、音楽づくり（創作）であれば「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」に関する目標を、鑑賞であれば「音楽への関心・意欲・態度」「鑑賞の能力」に関する目標を設定します。本題材の場合、学習内容から以下のような目標設定が考えられます。

音楽への関心・意欲・態度
歌詞の内容、曲想に興味・関心をもって、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組む。
音楽表現の創意工夫
リズム、速度、強弱、フレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫する。
音楽表現の技能
フレーズごとの呼吸に気を付けて、歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現で歌う。

目標設定の詳しい方法については、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）」を参照（<http://www.nier.go.jp/>）。

(5) 指導の計画を立てる

目標が決まったら、次に、どの時間にどんな学習するかの計画を立てます。

	○学習内容 ・ 学習活動	ポイント
第1時	<p>○「こいのぼり」の楽曲の特徴を感じ取り旋律を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴いて楽曲全体の特徴を感じ取り、その内容を発表する。 ・ 歌詞を読んだり、鯉のぼりの写真を見たりしながら、歌詞の表す様子や雰囲気想像する。 ・ 歌詞の様子を思い浮かべながら、音程やリズムに気を付けて楽譜を見ながら歌詞唱する。 	<p>いい歌だな！ ～な感じの曲だな。</p> <p>導入に当たる時間は、 ①関心意欲を持たせる、 ②楽曲全体の特徴を感じ取らせることが大切。</p>
★第2時	<p>○歌詞の表す様子や、曲想にふさわしい表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拡大楽譜で音高をとらえ、曲の山や強弱の変化を感じ取る。 ・ 曲想を生かした表現を工夫したり、歌詞や旋律の動き（リズムの特徴）に合う「強弱」「速度」を工夫したりしながらグループで歌う。 ・ フレーズを感じ取り、グループごとに交互唱する。 <p style="text-align: right;">＜詳しくは P37＞</p>	<p>～なふうに歌うには ○○を工夫するといいかな。</p> <p>展開に当たる時間は、 ☆ポイントをしばって表現の工夫をさせることが大切。 ※曲想を生かしたり、音楽と歌詞との関連を考えたりにしながら工夫させる。</p>
第3時	<p>○前時までの学習を基に、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現の工夫を生かした表現になるようにグループごとに練習する。 ・ 工夫した点を紹介しながら発表する。 	<p>終末に当たる時間は、 ☆表現の工夫を生かした歌い方ができるようにさせることが大切。</p> <p>思い通りに歌えた！ 歌っていいな！</p>

(6) 具体的な学習方法や手だてを考える

計画したら、次に、どのような具体的な学習方法や手だてで指導事項の内容を身に付けさせるのかを考えます。ここでは、「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」の目標達成のための手だてについての一例を紹介します。

音楽表現の創意工夫

リズム、速度、強弱、フレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫する。

♪ 歌詞の内容から情景を想像させたり、曲が表す場面の雰囲気を感じ取らせたりする。

- ・ 歌詞の内容を朗読し、意味を理解させる。
- ・ 歌詞の内容を示す写真やイラストから情景を想像させる。 など

- ・ 範唱を聴き、曲想を感じ取りながら身体表現（ハンドサインやリズム打ち、指揮など）させる。

♪ 歌詞の内容や曲想から、1段目と3段目を比較して聴いたり歌ったりして、どんな風に歌うか試しながら表現を工夫し、思いや意図をもたせる。



- ・ 歌詞の内容や曲想から「元気なこいのぼりを表現したいな」（思いをもつ）。そのためには、「勢いよく歌おう」（意図をもつ）。

試行錯誤

「試しながら表現を工夫し」の部分

- ・ 「付点のリズムは勢いよく」、「3段目のところはmpで音符も長くなるから少しやさしく」してみよう（意図の深まり）。→ 「青空に悠々と泳ぐこいのぼりを表現したいな」（思いの深まり）。

音楽表現の技能

フレーズごとの呼吸に気を付けて、歌詞の表す様子、曲想にふさわしい表現で歌う。

- ♪ 学級全体で旋律を練習し、曲の音程やリズムをつかませる。
- ♪ 母音唱で歌ったり、「ラ」「ル」など響きが確認しやすい言葉で歌わせる。
- ♪ フレーズごとに区切り、音の処理を丁寧に歌わせる。
- ♪ 楽譜にブレス記号や自分の表現記号（旋律に沿った線や丸など）を書かせる。
- ♪ 録音・録画で自分の演奏を振り返り、課題点をくり返し練習させる。
- ♪ チェック方式で部分的に歌わせる（詳細は第3章を参照）。

コラム：『目的に応じた指導形態を』

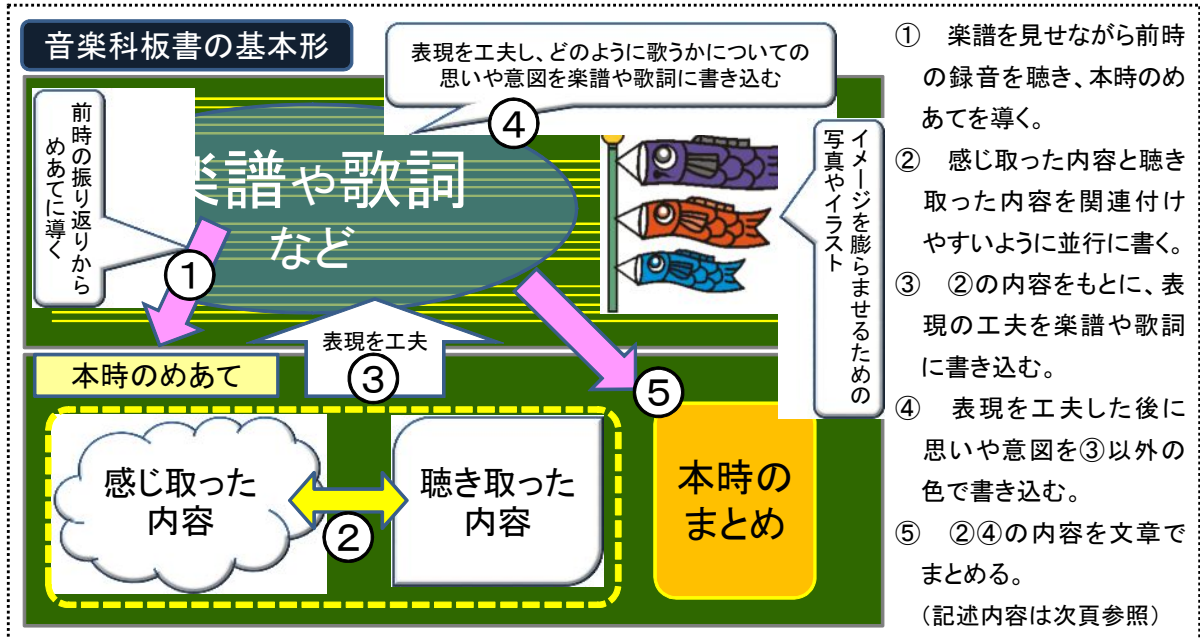
いつもみんなと一緒に歌ったり、演奏したりすることは楽しく、素晴らしいことです。しかし、それだけでは個人の力は育ちません。適切な指導形態による活動で、子どもたちは主体的に歌ったり演奏したりして、ねらいを達成することができます。



- ① 個人の活動 → 歌唱や器楽で反復練習を行い、基本的な技術を身に付けさせたいとき
- ② ペアの活動 → 個人の聴き方や感じ方を交流させたり、相互評価させたいとき
- ③ 少、中人数の活動 → 器楽アンサンブルや合唱パート内で多様な意見を交流させたいとき
- ④ 多人数の活動 → 聴き合ったり、全体合唱・合奏のよさや喜びを味わわせたいとき


(7) 板書計画を立てる

音楽科における板書は、一瞬で消えゆく音や音楽を文字や形に残す大変な作業です。音楽から得られる膨大な情報を取捨選択し、構造的な板書になるように、次の①～⑤に留意しましょう。



(8) 教材、教具を準備する

本題材では以下の教材、教具を準備します。

【教師が使う物】	【子どもが使う物】
<ul style="list-style-type: none"> 音源CD 縦書きの拡大歌詞 勇ましく泳ぐ鯉のぼりの映像（準備できれば） 音楽のもと（要素）カード <p>※本題材では「リズム」「速度」「旋律」「強弱」「フレーズ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 付箋紙 

これらの教材、教具には以下のような効果と注意点があります。

教材、教具	○長所 △注意点 ×短所
音源CD	○楽曲全体を捉えられる。 △多くの演奏を聴き比べてねらい達成に最適な音源を選ぶ。
映像DVD	○演奏の様子や楽曲のイメージを一目でつかめる。 ×はじめから見せるとイメージを強要してしまう可能性がある。
拡大歌詞・楽譜	○全員が同じ目線で音楽表現でき、共通理解も図りやすい。 △ねらいに応じて部分的に提示する必要がある。
写真やイメージ画	○楽曲のイメージをもったり背景を想像したりしやすい。 ×はじめから見せるとイメージを強要してしまう可能性がある。
音楽のもとカード（要素カード）	○どの要素に着目して聴いたり工夫したりするかの着眼点が見える。 △要素の有り様を示したカードも用意すると語彙が増える。
付箋紙	○各自の考えを提示でき、考えの変化に応じて操作しやすい。 △全体に見せるときは実物投影機等を使って拡大すること。

2 1時間の展開を考える



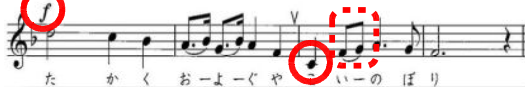

(1) ゴールから先に考えて授業をつくる

授業のゴール（本時主眼）

楽譜から曲の特徴をとらえたり、歌詞にふさわしいと思われる表現を何度も歌って試したりして、曲想に合う表現を工夫することができる。

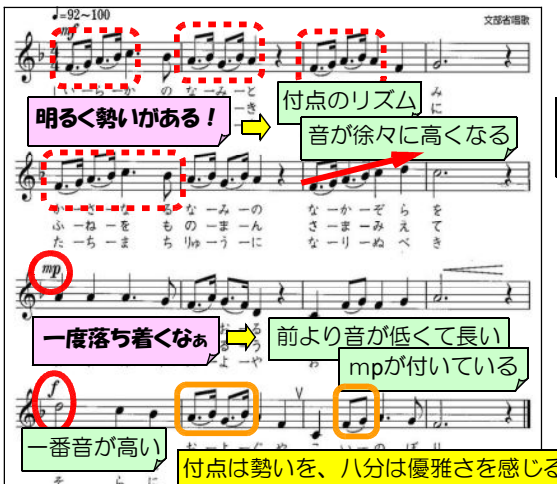
これを子どもの言葉に直したものが「まとめ」になる。

まとめ（後半の例）

<p>一度落ち着いた感じで</p>  <p>理由：前より音が低くなって音も長いし、mpも付いているから。</p>	<p>もりあがっていく感じで だんだん強く</p>  <p>理由：音が上に向かっていて次の節や歌詞に向かっておりあげたいから。</p>	<p>堂々と力強く</p>  <p>理由：堂々とした姿の歌詞で一番高い音でフォルテも付いているから。</p>	<p>太く、堂々と、 落ち着いた感じで</p>  <p>理由：音が低くなり、八分音符なので落ち着いた感じがするから。</p>
---	--	--	---

このまとめが子どもから出るようにするためには…

- 拡大楽譜から旋律の動きをとらえ、楽曲の山やリズムの変化に着目させたり、表現の工夫を付箋紙に書いて該当箇所に貼らせたりする。



付点のリズム
音が徐々に高くなる

明るく勢いがある！

一度落ち着くなあ

前より音が低くて長い
mpが付いている

一番音が高い

付点は勢いを、八分は優雅さを感じる

- ☆ 表現の工夫は、必ず歌って確認し、その都度、付加修正をする。



考えた表現を実際に歌ってみよう！

もっと工夫できそうかな？



- ☆ あえて意図とは逆の表現を提示することで曲想にふさわしい表現に気付かせることもできる。

付点ではなく、八分音符で歌ってみるとどんな感じかな？



表現を工夫し、思いや意図をもつという課題を示しためあては…

めあて 歌詞の内容を考え、曲想に合う表現を工夫しながら歌おう。

この課題意識が生まれるためには…

- 録音した自分たちの演奏（歌）を聴かせ、「歌詞にふさわしい歌い方かな？」「曲の雰囲気や上手く表現できているかな？」と問いかけたり、自分たちの演奏と範唱CDを比較したりして、足りないと思う部分を出し合う。

(2) 本時の展開

♪本時は、曲の“ヤマ(一番のピーク)”の表現に焦点化した事例
 <主眼>

- 楽譜から曲の特徴をとらえたり、歌詞にふさわしと思われる表現を何度も歌って試したりして、曲想に合う表現を工夫することができる。

<展開>

段階	学習内容と活動	発問と手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「こいのぼり」を通して歌い、課題を見つける。 ○ 録音を聴きながら、自分たちが表現したい思いが伝わってこない部分に印を付け、課題を見つける。 <p>大きな声で歌えていてGOOD!でも、歌詞が表す様子を音楽で上手く表現できているかな?</p> <p>大きな声では歌えているけど、優雅に勇ましく泳いでいる様子には聞こえないなあ…</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を見いださせるために、録音しておく。 ・ 歌詞の内容と自分たちの表現が一致していない部分に印を付けさせる。
<p>めあて 歌詞の内容を考え、この曲にあう表現を工夫しながら歌おう</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の“ヤマ”を感じ取る。 ○ 曲の“ヤマ”の歌詞が表す様子をとらえ直す。 ○ 曲の“ヤマ”の部分について、歌詞にあう力強い様子にふさわしい強弱表現を工夫して歌う。 ○ さらに曲の“ヤマ”を生かす表現をするために3段目にある“mp”と“クレシェンド”の強弱を工夫する。 <p>「4段目」が力強いな。</p> <p>「1~3番ともに悠々と泳いでいる様子だな。」</p> <p>「前半は、はずむリズムで明るく歌ったな。」「後半は、長い音符が多いし、悠々と泳いでいる様子だから豊かな感じで歌ってみよう。」「フォルテも付いてる!」</p> <p>常に強い感じで歌えばイメージが伝わるかな? 「朝風に」は音の高さや強弱はどうなってるかな?</p> <p>「少し優しい様子の歌詞だし、4段目を生かすために、作曲者はmpにしたのかな。」</p> <p>「“朝風に~”は音がだんだん高くなっているから、徐々に強くして(練習して)みよう。」「遅すぎない方がいいな。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ もう一度、原曲を聴いて“一番強調したいと思うところ”を見つけよう。 ・ ヤマの部分の歌詞はどんな内容かな? ・ 4段目の「高く泳ぐや」「物に動ぜぬ」「空におどるや」に着目させる。 ・ 前半と後半で曲の雰囲気が変わるけど、それに合う表現ってどんな表現かな? ・ 作曲者の意図をとらえさせるために、前半と後半のリズムの違いや強弱記号 (mf → mp → f) の変化に着目させる。 ・ よりふさわしい強弱を考えさせるために、“ヤマ”の前にあるクレシェンドと音高とのかかわりにも着目させる。 ・ 楽譜上の mp の意味を考えさせるために、4段目の“f”と対比し歌わせる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習した表現を生かし、全員で「こいのぼり」を歌う。 <p>「長い音符は堂々と歌ったり、3段目からだんだん強く歌ってみたりすると、優雅に勇ましく泳いでいる様子が表現できた!」</p> <p>「1~2段目も、明るくはずんだ歌い方をすると、元気な“こいのぼり”を表現できた!」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3~4段目で工夫した内容を生かして、1~2段目も自分なりに工夫しながら歌ってみよう! ・ 上手く歌えていなくても、表現の工夫ができていれば賞賛する。(主眼は表現の工夫)

小学校 外国語活動 第6学年

・単元名「できることを紹介しよう」(「Hi, friends! 2」Lesson3 "I can swim.")

1 教材研究をしよう

(1) 外国語活動の目標は、コミュニケーション能力の素地の育成です

外国語活動の目標である「コミュニケーション能力の素地を養うこと」は三つから構成されています。具体的には、第一に「言語や文化について体験的に理解を深めること」、第二に「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること」、そして第三に「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること」です。そして、これらの三つを「外国語を通じて」実現をします。

小学校学習指導要領解説「外国語活動編」P7(第1節 外国語活動 目標)

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

(2) 単元の内容は、「解説」のどこに書いているかを確認めます

外国語活動の「目標」は、3つから構成されています。「内容」は「外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる」、「日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を図ることができる」の二つです。これら二つの内容を「外国語を通じて」行うことが、結果として「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」こととなります。

外国語活動の内容は、下記の通り2学年間を通して設定されているため、各学校では、児童や地域の実態に応じて、あらかじめ学年ごとの目標や内容を設定しています。そこで、「解説」で外国語活動の目標や内容を確認するとともに、各学校の「外国語活動推進計画」や「年間指導計画」で、自校の目標や内容の詳細を確認します。また、その単元で取り扱う言語材料が、どのような「コミュニケーションの場面」や「コミュニケーションの働き」であるかを「解説」(P21~24)で把握します。

小学校「解説」外国語活動編 P9~P10

[第5学年及び第6学年]

- 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
 - (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
 - (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。
- 2 日本語と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
 - (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
 - (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

(3) 単元の目標をはっきりとさせます

単元の目標を外国語活動の評価の観点（「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語への慣れ親しみ」、「言語や文化に関する気付き」）に沿って設定します。

<単元の目標 例>

- 積極的に友だちにできることを尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりしようとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- I can ～. / I can't ～. などの表現に慣れ親しむ。 【外国語への慣れ親しみ】
- スポーツ、楽器の演奏などの英語表現と日本語（外来語）表現との違いに気付く。 【言語や文化に関する気付き】

次に、単元の目標に基づく評価規準を設定します。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】の目標として用いられる「積極的に話したり聞いたりする」とはどんな姿でしょうか？

どのように話したり聞いたりする姿が良いかが、誰にでも分かるように書きます。

評価規準は、「自分から行動する」、「届く声で話す」、「たくさんの人とかかわる」などその単元、時間でめざす具体的な子どもの姿で表すことが必要です。（「第3章 外国語活動」を参照）



<評価規準 例>

- ・ 自分ができることやできないことについて、ジェスチャーや絵などの非言語で補足しながら、はっきりと伝わるように話したり、友だちのできること、できないことについての話を反応しながら聞いたりしている。（様相観察、自己評価）
- ・ I can ～. / I can't ～. を用いてできることやできないことを話したり聞いたりしている。（様相観察）
- ・ スポーツ、楽器の演奏などの英語表現と日本語（外来語）表現とでは、発音やアクセントが異なることに気付いている。（記述）

<参考資料> 国立教育政策研究所教育課程研究センターHP 『評価の規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』 http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/shou/11_sho_gaikatu.pdf

福岡県教育センターHP 『小学校外国語活動指導マニュアル』 <http://www.educ.pref.fukuoka.jp>

(4) 目標を達成できるような活動を選定します

外国語活動では、歌、チャンツ、ゲーム、クイズ、インタビュー、ロールプレイ、スキット、スピーチなどの様々なコミュニケーション活動を単元の中にバランスよく位置づけて、児童を目標達成へと導きます。それぞれの活動が、児童にとって楽しいだけでなく、目標に向かわせることが大切です。

（例）単元名「できることを紹介しよう(Hi, friends! 2 Lesson3 I can swim.)」

まず、第1時では、「できる」「できない」などの表現がどのような場面で使われるかについて理解させるとともに、本単元におけるゴール像をつかませます。そのために、第4時に行うスピーチのデモンストレーションを教師が行います。

次に、第2・3時では、「できる」「できない」などの表現に慣れ親しませます。

そのために、チャンツやクイズなどで聞くことに慣れ親しませた後で、インタビューゲームなどを通して話すことに慣れ親しませます。また、インタビューゲームでは、聞き手のどのような反応が好ましいかについて考えさせた上で、実際にインタビューゲームの中で使わせます。

最後に、第4時では、「できる」「できない」などの表現を用いて、自分ができていることを発表するスピーチをさせます。スピーチの際には、知っている英語やジェスチャーなどを駆使して伝える体験をさせます。

(5) 活動に必要な教材の準備をします

(例) 単元名「できることを紹介しよう(Hi, friends! 2 Lesson3 I can swim.)」

<p>○絵カード (動作を表す語)</p> <p>※ Hi, friends! 指導用DVDから印刷可能</p>  <p>板書における絵カードの活用例</p>	<p>○ Hi, friends! 指導用DVD</p> <p>○ コンピュータ</p> <p>○ スピーカー</p> <p>○ 電子黒板等</p>  <p>Hi, friends! DVD 教材 液晶TVによる資料提示</p>
---	--

(6) 板書計画をします

<板書例>



1時間の活動の流れを示し、見通しをもたせる。

活動のポイント

※ Hi, friends! DVD 教材の音声再生に関する不具合について ※

「修正パッチ」を文部科学省のHPよりダウンロードすることができます。URL <http://mext-hifriends.net/> から、該当データをダウンロードして保存してください。手順の詳細は、掲載されているマニュアルを参照してください。

2 1時間の展開を考える

(1) 本時の展開 「できることを紹介しよう(Hi, friends! 2 Lesson3 I can swim.)」第3/4時

<主眼>

- 尋ねたいことが伝わるように話そうとする。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- Can you ...? を用いてできることを尋ねる表現に慣れ親しむ。
【外国語への慣れ親しみ】

<展開>

段階	児童の学習活動
導	<p>1 チャンツで、前時のビンゴゲームで使った表現を想起し、本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせて、前時までの表現を振り返る。 ・本時の活動「インタビューゲーム」の教師のデモンストレーションを見て、どのようなことに気をつけて尋ねるとよいかを考える。
入	<p>めあて</p> <p>友だちの「できること、できないこと」について、尋ねたいことが伝わるように質問しよう。</p>
展	<p>2 インタビューゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちに尋ねたいことを 11 の動作の中から二つ選び、残りの一つには尋ねてみたいことを自由に書く。 ・教師の「インタビューゲーム」のデモンストレーションを再度見て、尋ねたい事柄の英語表現が分からない場合の伝え方について考える。 ・Can you ...? でインタビューし合い、結果インタビューシートに○や△で記入する。
開	<p>3 Who am I? クイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の紹介を聞いて、学級の誰を紹介しているかを当てる。
終	<p>4 本時学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返しシートに本時の活動について自己評価や気付いたことを記入する。 ・本時活動を通して気付いたことを発表する。
末	<p>まとめ</p> <p>ジェスチャーで表したり、別の英語で表したりすると伝わる。</p>

「チャンツ」について

チャンツとは、英語のリズムやイントネーションが崩れないように、そのままリズムやビートに乗せ、英語のフレーズを何度も口ずさむ活動です。これによって、日本語にはない文の強勢やアクセント、発音、英語の自然なリズムに慣れ親しませることができず。また、語のかたまり(チャンク)ごとにリズムに乗せるので、フレーズ全体を自然にインプットすることに役立ちます。

「インタビューゲーム」について

インタビューゲームは、ペアや班の形態で言葉やジェスチャーを使いながら自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いて理解したりさせる活動です。

中心となっている英語表現を使わせることをねらいとするとともに、「より多くの人と」「だれとでも」「相手を見て」など、コミュニケーションにかかわる態度についての目標をもたせて行かせます。

「Who am I? クイズ」について

教師が言うヒントをもとに、児童にだれについて話しているかについて当てさせるゲームです。例えば、「I can play soccer. I can play the piano. I can do Karate. Who am I?」というヒントをもとに、児童は「Takashi!」と当てます。小学校では he や she などの三人称は扱わないことが多いことから、教師は出題したい人物になりきってヒントを言うことがポイントです。

(2) ゴールから先に考えて授業をつくる本時の展開

授業のゴール

Can you ...? を用いて尋ねたり答えたりするとともに、尋ねたいことが相手に伝わるように別の言葉で言い換えたり、ジェスチャーで補足したして伝えようとする。



まとめ

Can you ...? を使うとできるかどうかを尋ねることができ、英語での言い方が分からない場合はジェスチャーで表したり、別の英語で表したりするとより伝わる。



めあて

友だちの「できること、できないこと」について、尋ねたいことが伝わるように質問しよう。



図1 インタビューシート

この「まとめ」が子どもから出るようにするために、上のインタビューシートのblankに、聞いてみたい事柄を記入させます。記入した事柄の英語表現を知らない場合は、他の知っている言葉で言い換えたり、ジェスチャーで表したりする体験をさせます。

(3) 1単位時間の活動の仕組み方の基本

ア 導入 —たつぷりと音に触れさせます—

「聞く」、「まねる」活動を仕組んで、英語の音に慣れ親しませます。例えば、チャンツ、キーワードゲーム、ポインティングゲームなどの活動を用いて、楽しみながら何度も繰り返して本単元の表現を聞かせます。聞き慣れてきたら、教師の発話を真似て言わせるようにします。楽しみながら、何度も繰り返し聞いたり言ったりすることで聞いたり、言ったりすることに慣れ親しませることができます。

イ 展開 —活動を通して本時の目標にせまらせます—

慣れ親しんだ表現を用いて、話したり聞いたりする体験をさせます。例えば、インタビューゲーム、クイズ、スピーチ、ショー・アンド・テルなどで、言いたいことを知っている外国語で話したり聞いたりさせます。この時、児童が「伝えたい。」「聞きたい。」というような話題を設定することが大切です。

ウ 終末 —体験を通してできたこと、分かったことをまとめさせます—

本時の体験でできたこと、分かったことなどを「めあて」に沿ってまとめます。まず、「振り返りシート」に本時の体験活動について自己評価させたり、気付いたことを各自に記入させたりします。次に、各自の気づきを全体場で発表させ、教師がそれを集約して板書します。